

# 慈雲

13号

2010/5

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

[zui renji@nifty.com](mailto:zui renji@nifty.com)



SinsyuuOotaniha

JiunzanZui renji

Jiunkai

爾時大王  
食麩飲漿  
求水漱口

## 【『観経』の言葉】

求	ぐ	食	じき	爾	に
水	すい	麩	しょう	時	じ
漱	そう	飲	おん	大	だい
口	く	漿	しょう	王	おう

その時に大王、麩を食し漿を飲み、水を求めて口を漱ぐ。

ピンバシヤラ王は幽閉されていたにもかかわらず、夫人が運んでくれた物を食べ飲みして命をつなぎました。その後で口を漱いでお釈迦さまに向かつて法を請うのです。經典は、仏法があれば人間は食べなくてもよいなどとは言いません。人間の現実に即しています。食べる事すなわち生きる事、そのような存在である人間に対して法（教え）が説かれているのです。

坊守

今回、岡崎別院でのお待ち受け法要で皆さんと一緒に仏教賛歌を歌いました。その中で印象に残ったのは、歌ったあとの指揮者と伴奏者のコメントです。

お二人ともに「仏教讃歌はメロディだけでなく、歌詞に意味があり内容も奥が深いということをお話されて感じました」という事をお話されました。それは私も感じたことでした。仏教讃歌を歌うのは初めてではないのに、なぜ今まで以上に感動したのだろうかと私なりに考えてみました。

私達は普段何気なくいろいろな事を感じたり考えたりして暮らしています。が、ふと生活の中で自分を見つめることがあると、内に果てしない闇のようなものを抱えていることに気づかれます。誰もがそういう暗い部分を持っているのでしようがあまり見たくありませんし認めたくもありません。

そういう私達の上にも等しく照らしてくださる仏さまの光とか、願うこと、願うことを、本番では歌詞を通して身を感じて歌えたような気がします。ありがとうございます。

加藤 文子

「宗祖親鸞聖人750回御遠忌お待ち受け法要」が4月25日(日)岡崎別院でありました。

その折「仏教賛歌を歌う会」のコーラス発表会も併せてあり、参加させて頂きました。

昨年の夏の終わりに住職様くわいぶご夫妻に勧めさせて頂き、大谷高校の栗原先生の指導で月一回の練習を重ね、あつと言う間に発表会の当日を迎えました。

全7曲の発表曲の内、5曲が仏教賛歌で男女合わせて48名が岡崎別院の本堂で歌いました。

皆さん真剣に聞いて下さり最後の曲の終わりには涙を流しながら聞いてくださっている方がいて「命の大切さと、み仏は苦しい時も悲しい時も何時も衆生のそばに寄り添って下さる。」という意味の歌詞の内容が、確かに皆様に届いている事に感慨深いものがありました。思いがけない体験をさせていただき充実した一日でした。

住職様ご夫妻はじめ役員様に心より感謝致します。

堺 輝代

私は、中学生の時から数年間、上村けい先生御指導の下でうたう機会をもちました。

その時は歌っているのが仏教賛歌であることは知りませんでした。が、それまで感じたことのない心に響く旋律でありました。

思いがけなく、寺院本堂のひかりの中で再びうたう機会に恵まれました。

栗原先生は旋律と言葉の意味を思っで歌うように指導して下さいました。ていねいに歌っていると以前より少し成長した様なわくわくした気持ちになりました。

聴いて下さる方との共感や日常の中で得難いものでありました。

これから先の暮らしの中に光りを得られたとうれしく感謝して居ります。

~~~~~  
【お知らせ】  
~~~~~

五月二十日(木)午前九時より  
仏具のお磨きみがをいたします